

### 【自己診断シート】

ライフプランといっても遠い将来の話ではなく、まずは今、自分自身が親によって養われ、親はお金のやりくりをしていることに気付かせる必要があります。このコンテンツでは、自立した生活者となるためには、ライフプランやお金のことを考える必要があることに気付かせます。また、資産形成におけるリスクとリターンについても学習します。

Aの解説：

日々のお小遣いや、欲しいものを買ってもらうだけでなく、自分の普段の生活自体にお金がかかっていることを気付かせます。「生きて行くことにはお金がかかる」ことを理解させ、ライフプランを考える入口とします。

Bの解説：

ライフプランを考えることは、一定の目標地点を置き、そこへどうつなげればいいのかプロセスを考えることでもあります。「どんな自分になりたいか」を目標として捉えさせて次の問いへつなげます。

Cの解説：

進学・就職・結婚・出産・マイホームの購入などのライフイベントを大まかに考えさせ、その実現にはある程度まとまったお金が必要であることを意識させるのが目的です。

Dの解説：

リスクについて学ぶ前に、用語の確認をします。金融商品におけるリスクとは「危険」という意味ではなく、将来得られる結果のばらつき具合（不確実性）を意味します。

設問2の解答：

生徒が自分のお金の貯め方や使い方を再認識し、本コンテンツへの興味関心を持たせます。

---

### 【確認テスト】

[解答] 1 : A    2 : C    3 : C

[解説]

1 : 自分の将来について漠然とではなく、自分がどんな人生を送りたいか、夢の実現のためにどうすればいいかということを考えることが、ライフプランの第一歩です。

2 : 「貯蓄」は、安全・確実にお金を「貯める」ことに重点が置かれています。「投資」は、お金を「ふやす」ことに重点を置いています。株式投資は収益性は高いですが、価格が変動するため、大きく資産がふえることが期待できる反面、大きく減る可能性も高くなります。

3 : 株式はハイリスク・ハイリターンの金融商品です。預貯金はローリスク・ローリターンとなり、債券は満期まで保有すれば元本を受け取れますが、価格は変動するため、預貯金よりもリスク・リターンが上に位置付けられます。なお、ローリスク・ハイリターンの金融商品というものはありません。